

人々や世界のために 貢献するという心掛けを

学校と経営者の交流活動推進委員会(杉江和男委員長)は、第7回教育フォーラムを開催し、中学生とその保護者の方々、教師、教育関係者ら約190名が参加した。開会の挨拶に立った杉江委員長は中学生たちに「いろいろな中学校の生徒や先生だけでなく、保護者や経営者も一堂に会する貴重な機会。たくさん発言して有意義な一日にしてほしい」と語った。基調講演やグループ・ディスカッションの様子、参加者の感想の一部を紹介する。

学校と
経営者の交流活動
推進委員会 主催

3月23日開催

■第1部 基調講演 自ら学ぶ力をつけよう! 講師:前原 金一 副代表幹事・専務理事

命を大切に、「一隅を照らす」

自ら学ぶ力を身に付けるために、三つのメッセージをお話しします。

一つは命の大切さと生きるということです。皆さんから10代、先祖をさかのぼると先祖が約1,000人、さらに10代さかのぼると約104万人もいます。今生きているということは、これだけ多くの先祖の命を受け継いでいるということです。いわば命の駅伝ランナーのようなものです。どうかそのことを忘れずに命を大切に生きてください。

次に「一隅を照らす」ということです。伝教大師・最澄は「一隅を照らす、

これ即ち国宝なり」と説いておられます。自分の周りの人々や社会を一生懸命に照らすことが大切だということですが、自分もまた、多くの方々に照らされていることを学んでください。

日本は世界中の人々から 期待されている

世界から見れば、現在の日本ではほとんどの人が豊かで恵まれた環境にあります。日本の報道関係者は日本の悪口ばかりを書きますが、実は世界から見れば日本はとても良い国なのです。

例えば、日本は長く続いている会社が世界で一番多い国です。1,000年以上も続いている会社が約10社あります。500年続いている会社も約50社、200年になると2,000～3,000社といわれ、世界の半分といわれています。ちなみに、韓国には200年続いた会社はゼロ、中国は約10社ほど、アメリカは国ができてまだ200年くらいです。

まだまだ日本の強みはあります。日本は国土が狭く資源がないと教わった

と思いますが、実は海の領域を合わせると広さは世界第6位です。つまり、海底資源を考えると資源大国になるかもしれません。またGDPは世界第3位の経済大国です。それから、「世界に良い影響を与えている国」ランキングでは、日本は第1位になりました。

これらを考えても、日本の将来のポテンシャルは非常に高いと言っているでしょう。つまり、それだけ世界に貢献できることがたくさんあるということです。私も胸を張って、もっともっと良い国にする努力をしたいと思います。自分の利益のためだけではなく、人々や世界のために貢献するという心掛けを一人ひとりが持ってほしい。おそらく世界中の人々が日本人に対して心から期待していると思います。

人に接するときは 和やかな気持ちで

最後に、私の恩師の教えについてお話しします。恩師の一人、新井正明氏(元住友生命保険会長)が私にリーダー

■プログラム

第1部 基調講演

テーマ:「自ら学ぶ力をつけよう!」

講師:前原 金一 副代表幹事・専務理事

第2部 グループ・ディスカッション

生徒グループ

テーマ:「勉強するのは何のため？」

働くってどういうこと？」

教員/保護者グループ

テーマ:「これからの社会で求められる力と教育のあり方」

の心得を教えてくださいました。その中で、安岡正篤先生が解説されている明の崔後渠の「處人藹然」という言葉を私の人生訓としました。人に対するときは、和やかに伸び伸びと感じさせることです。日頃から心掛けて努力す

れば少しずつ成長でき、「一隅を照らす」ことも体得できると信じています。また大学の恩師、隅谷三喜男先生は「社会に出てからも1日1時間は勉強しなさい」とおっしゃいました。そこで私は7時に出社して1時間勉強しました。

学ぶ習慣が付いたことは、私の人生にとって大変大きな宝物になりました。

ぜひ皆さんも、ご先祖さまから受け継いでいる豊かな心や才能をしっかり磨いて、明るく温かく輝いて世の中を照らしていただきたいと思います。

生徒との質疑応答

Q 企業では積極性と協調性のある人材を求めると聞きます。でも積極的に前に出ると、みんなとの協調性が持てません。どちらを重視しますか。

A 積極性と協調性が相いれないと思っているようですが、そうではありません。経済同友会の会議でも、みんな積極的に発言します。しかし、一度会議で決まったことには、みんなで協調して前に進めます。積極性と協調性は共に伸ばしていけるもので、どちらも大切なことです。

Q 私は社会に貢献する仕事をしたいと思っています。どんな努力

をすればよいですか。

A 私の周りでは、自分の属しているグループや家族、組織を大事にして、共に成長できるように行動できる人が良い経営者になっています。そのためにも良い指導者や先輩と親しく一生のお付き合いをすることも大事でしょう。

Q 大人になるまでに読んだ方がいいお薦めの本はありますか。

A 読書量が少なくないと、将来能力を高める上でマイナスです。いろいろな国の歴史を読むのがいいと思います。また外国人にも説明できるよう、近現代史を英語で勉強してほしいですね。

Q 一つの物事をみんなで協力してやってもらうための方法はあるですか。

A 上からやれと言うと、人はやたふりはしますが、なかなか自分からはやりません。でも、みんなで話し合って自分から提案したことには積極的に行動します。ですから、そういう気持ちになる環境を作るといいと思います。



■自分は一人で生きているわけではなく、多くの方から照らされていることが分かりました。自分自身を磨き、輝ける存在になりたいと思いました。(中3)

■本当に自分がいいのかと考えたときもありましたが、「君の命は、君一人の命ではない。たくさんのご先祖さまの思いがある」というお話を聞いて、私が今までご先祖さまが築いたものを断てはいけなかったと思いました。(中3)

■“学ぶ”ということは机に向かって一人でするもの、というイメージがありましたが、自分一人では学べない多くのことがあるのが分かりました。(中2)

■長く続いている企業が世界一多いのは日本だと聞いて、日本の歴史は絶え間なく続く大河の流れのようだと感じました。(中1)

■僕が気になったのは座右の銘としている「處人藹然」

です。他にも教えていただいた言葉を家に帰って調べたいと思います。

■前原さんの日本の良い点を挙げるところや質問を述べた生徒をほめるところがすてきだと思いました。それも根拠のあることをおっしゃっていたので、この場にいる人全員に新たな自信が生まれ、発言しやすい場づくりにもなっていたのではないのでしょうか。そのような点が、リーダーや話の中心となる人に必要な素質なんだと知ることができました。(中2)

■印象に残った言葉は「心から強く願って努力すれば、それは必ず少しずつでも報われる」ということです。まるで今の私に向かっておっしゃっているようでした。私の将来の夢、“国連で働く”という強い願いを、ずっと努力すれば、必ずかなうと応援してくださっているようでもありました。“あきらめない”ということを中心にとめ、夢に向かって頑張りたいと思います。(中1)



■第2部 グループ・ディスカッション

勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？

第2部では生徒・教員・保護者の各グループに分かれ、グループ・ディスカッションを行った。講師の問題提起に対し、参加者はそれぞれの立場で発言し、問題意識や解決策を共有するなど有意義な議論が行われた。終了後は、交流会が催された。

今、何をすべきか。 活発な意見が交換される。

生徒グループは10グループに分かれ、講師のリードの下、ディスカッションを行った。

杉江和男委員長は「学校の勉強は基礎学力を付けることであり、それが変化に対応できる力を養うことになる。これは大人になるために必要なこと」と説き、勉強でも仕事でも「相手が何を望んでいるかを考えることが大事。勉強なら先生が求めているのは何かを考えること。そうすれば、自分が何をすべきかが分かる」と語った。

日高信彦副委員長は夢に向かって進んでいく中で、「つらくてくよくよすることもある。でも常になりたい自分の姿を思い浮かべてほしい」と語り、「好きなことだったら努力できる。そして自分一人と考えず、一緒にできる仲間

を作ろう」と話した。

四方ゆかり副委員長は勉強の必要性とは何かと問い掛けた。「子どもに比べて大人の方が圧倒的に世の中のことを知っている。なぜなら勉強の積み重ねがあるから」と、真の大人になるための勉強の大切さを述べた。

出口恭子副委員長は将来の仕事と勉強について、「学校での勉強は、今は必要ないと思っている科目も、将来仕事をするときに必要なことがある」と述べ、また「人生は仕事だけではない。遊びでやっていることでも、それが仕事で力を発揮することもある」と、いろいろな経験が力になることの重要性を語った。

高坂節三氏は経営者などリーダー的な存在となる人の心得について、「周りの人から『この人に頼もう』と押し上げられることが必要」と、自分の思いだけではかなわないことを語り、「目配りでき、気配りができることが大切だ」と指摘した。

永山妙子氏は中学時代にいろいろなことに挑戦してみる、その姿勢の大切さを語った。また「読書は、知識だけでなく集中力、分析



力、表現力、文章力などが付き、人間力をつくる。さらにスポーツによる鍛錬は、筋力を強め身体を強くするだけでなく、練習に耐える精神力を養う」と述べた。

各グループとも、講師が、それぞれの考え方を生徒たちに語りかけながら疑問にも答え、また生徒同士の意見交換を促した。講師にとっては現代の中学生の、また中学生にとっては経営者、そして同じ中学生同士のさまざまな考えに触れる機会にもなった。



参加者の感想

生徒グループ

- 「今日やることは明日にはやれない」という言葉がとても心に残りました。また、ディスカッションで聞いた意見を参考に、今後変化に対応できる力を身に付けたいです。(中1)
- 自分が生徒会活動をする上で意識している「今まで誰もやったことのないこと」が、これからの日本で重要だと聞いてうれしかった。「自分の好きなこと、続けたいこと」をやっていこうと思った。(中2)
- 「限界は自分でつくっている」というお話が印象に残りました。確かに「私にはできないだろう」と思い、やっていないこともありました。そんなことでも、これからはポジティブにとらえていきたいと思いました。(中2)
- 成果を出すために大切なのは、能力だけでなく、意欲が最も大切だということが分かりました。意欲を低下させ続けないために、私も目標を決めようと思いました。(中3)
- 初対面の生徒なのに、たった2時間で仲良くなれうれしかった。4月から新学期が始まるので、この経験を

活かしていきたいと思う。(中2)

- 自分の好きなことを仕事にするのが大切だと聞いていたが、それだけではなく自分の向いているものを考えることも大切だと、いろいろな考え方を知った。また他校の生徒と接する良い機会となり、とてもためになった。(中2)

教員グループ

- 現在の中学生在が歩んでいく社会は、どのような背景になり、どのような力が必要になるのか。自律的に考え、自律的に行動する力が必要であり、学校教育のすべての教科の中で実践すべきだと思いました。
- 企業経営者が求める人材と教育界で育てている人材とがずれていることと、その原因の一端が分かった。学校での人材育成への取り組みに向けて、課題解決の糸口が少し見えたことが非常に有意義でした。

保護者グループ

- 講師の先生のお話はもちろん、他の保護者のご意見を伺えて、大変有意義でした。参加者のコメントに一つひとつ解決のヒントをくださって良いディスカッションができました。



参加講師 (役職は開催当時、五十音順)

●生徒グループ

- 大塚 良彦(大塚産業クリエイツ 取締役社長)
- 高坂 節三(日本漢字能力検定協会 理事長)
- 島田 俊夫(シーエーシー 取締役会長)
- ◎杉江 和男(DIC 取締役会長)
- 出口 恭子(ベルシステム24 専務執行役)
- 永山 妙子(成都天府ソフトウェアパーク 日本商務代表)
- 日高 信彦(ガートナージャパン 取締役社長)
- 廣瀬 駒雄(オーエム通商アクト 取締役社長)
- 吉村 幸雄(シティグループ・ジャパン・ホールディングス執行役員
ガバメント・アフェアーズ担当)
- 四方ゆかり(グラクソ・スミスクライン 取締役)

●教員グループ

- 遠藤 勝裕(日本学生支援機構 理事長)
- 小林 恵智(中日科学技術発展中心 理事長)
- 同前 雅弘(大和証券グループ本社 顧問)
- 林 明夫(開倫塾 取締役社長)

●保護者グループ

- 藤田 實(オグルヴィ・アンド・メイザー・ジャパン 名誉会長)
- ※◎は学校と経営者の交流活動推進委員会 委員長、○は副委員長